資料1

第１回木材調達チェックブック検討作成委員会について（事務局案）

１　経緯と主旨

森林資源や木材利用による環境貢献を明らかにし、国産材及び地域材需要拡大に寄与するための環境指標は多岐に渡り、国産材・地域材需要拡大の核となる木造住宅設計者や工務店の現場で有効利用されていない。ウッドマイルズ研究会では、木材の環境指標の一当事者として、様々な環境指標を理解し、総合的かつバランスのとれた利活用の推進を目指した「木材に関する環境指標の普及及び統合」活動を、平成20年度より３ヵ年計画で実施している。

平成20年度は､木材に関する様々な環境指標の現状を知るためフォーラム･セミナーを開催し、平成21年度は、具体的に森林～木材～家づくりという連携事例に焦点を当て、フォーラム・セミナーの開催、及び先駆事例のケーススタディー調査を実施した。これらの２年間の活動からは、主に以下の課題を得た。

●多岐に渡りかつ難解な各々の環境指標は、木造住宅設計者や工務店の現場では使えない。
●地域材、国産材の需要拡大には「環境」だけではなく現実的な「品質」の指標が不可欠。
●指標の領域拡大や正確さと、分かり易さ、という両極のものをいかにまとめるべきか。
●地域性に富む林業、木材産業、建築業に対する基準は、国で統一すべきか地域がよいか。
●政策は消費者や関係業者の機運の高まり無しには実行し得ない。

活動３年目となる今年度は、これまでの活動の成果を形にするため、上記の課題解決、及び多岐に渡る環境指標の取りまとめ等を盛り込んだ「木材調達チェックブック」の検討作成を行う。

２　検討事項

（１）木材調達チェックブックの目的について
　　・対象者、目的、使い方
（２）木材調達チェックブックの内容について
　　・構成、項目（指標の範囲)、情報レベル、最終成果物の形態
（３）各項目の内容について
　　・項目（指標）の内容、判断基準、その他

３　進め方

6月19日　ウッドマイルズフォーラム開催（東京）～意見・情報交換
8月3日　第１回検討作成委員会（概要検討）
　　アンケート調査実施
9月27日（28日）ウッドマイルズセミナー開催（京都）～意見・情報交換
10月中旬　第２回検討作成委員会（セミナー結果踏まえ、概要決定）
　　チェックブック（案）作成
12月下旬　ホームページ上にてチェックブック（案）に対する意見募集
2月中旬　第３回検討作成委員会（意見募集踏まえ、修正検討）
　　チェックブック修正・完成
3月下旬　チェックブック公開

資料2

木材調達チェックブックの目的について（事務局案）

（総会の参考意見）

＜成果品のイメージ＞

●ＣＡＳＢＥＥのような指標の総合化が良いか、ガイドブックのような一覧表が良いか。

●書籍として出版した方が、より多くの人に見てもらえる。

●販売を主目的とする書籍にするか否かは、議論が必要だと思う。

●研究書ではなく、実務者が何をすべきかが分かる、使い易いものにするべき。

●指標の解説書ではなく、現場で使うチェックブックというイメージがある。

●様々な指標を総合的にバランスよく使うことこそ、実務者にとっての指標の統合だと思う。

＜対象者＞

●公共建築物等における木材の利用の促進法により、設計者のニーズは多いと思う。

●建築物の木材調達は、最終的に特記仕様書で決まるので、対象は設計者だと思う。

●プロだけではなく、一般市民向けにアピールできるものがいい。

●オールジャパンの人達向けだと、オールジャパンの人しか使えない。地域の人が地域で使えるという、地域の視点を排除しないで欲しい。

●紙製品など、建築物以外の製品にも広がるものである。

＜内容について＞

●どの辺りのレベルをクリアすれば良いかが、分かるものがいい。

●品質はかなり大きな話になるが、どの程度まで含めるべきか。

●自治体の地域材認証との関係性もテーマにするべき。

●自治体の地域材認証との関係で、1～3 のようにレベル分けした提案が盛り込めれば、自治体にとっても使い易い。

●ウッドマイルズの「近さ」だけではなく、林産地と消費地の関係という視点も考慮して欲しい。

（フォーラムの参考意見）

＜中澤氏＞

●フェアウッド調達基準は、地域型工務店への普及が課題。

<table>
<tr><td rowspan="2">**【積水ハウス「持続可能性を支える 10 の調達指針」】**
1 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材
2 貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材
3 地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採が行われている地域以外から産出された木材
4 絶滅が危惧されている樹種以外の木材
5 消費地との距離がより近い地域から産出された木材
6 木材に関する紛争や対立がある地域以外から産出された木材
7 森林の回復速度を超えない計画的な伐採が行われている地域から産出された木材
8 国産木材
9 自然生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材
10 木廃材を原料とした木質建材

※フェアウッド調達基準例（フェアウッドＨＰより）</td><td>**【地球の芽「小舟木エコ村木材調達指針」】**
1 違法伐採の危険性が高い地域で伐採された木材、絶滅が危惧されている木材はなるべく利用しない。具体的な樹種・産地に関する情報は、専門家や NGO の意見を聞きながら、運用基準としてとりまとめ、定期的に更新する。
2 小舟木エコ村に近い場所で産出された木材（滋賀県産木材・国産木材）を優先的に利用する。
3 持続可能な森林経営が行われていると認証された森林から産出された木材を積極的に利用する。</td></tr>
<tr><td>**【ワイス・ワイス グリーンプロジェクト４つの取り組み（その３）「森を壊さず、豊かな森を育てます」】**
1 以下の木材を積極的に活用します。
・生産地や生産者が明らかな木材－国内産の木材
・FSC などの森林認証を受けた木材
2 以下の可能性がある木材はできるだけ使いません。
・原産地や樹種の不明な木材や違法伐採された木材
・生態系を破壊して伐採された木材や絶滅が危惧される木材</td></tr>
</table>

＜遠藤氏＞

●地域材利用のメリットをもっと施主に皆でアピールすることが重要。

●補助が終ってしまったら、引き続き使ってくれる人は少ないと思う。

＜港区の地球温暖化対策とみなとモデルの検討状況／吉野亜文氏＞

●木材の品質については、バラツキも多く、設計者がどのように指示をすれば良いか分からない。

●建築物の内装制限や木製品のメンテナンス計画（技術、予算）、耐久性（安全性）についても、なかなか知見が少なく現実的には大きな課題。

＜榎本氏＞

●品質の「見える化」として、産地表示、合法証明、国内唯一の公的な性能担保であるＪＡＳ（含水、強度、寸法、シリアルナンバー）を表示している。

●品質の考え方は様々だが、個人的には供給者、施工者、施主という３者の同意が取れるものであればよいと思っている。

＜速水氏＞

●たくさん基準をつくるのは良くない。ウッドマイルズは FoE の基準に組み込んでいくべき。

●業界団体証明ではなく、環境 NGO のような第三者証明でなければ国際的には通用しない。

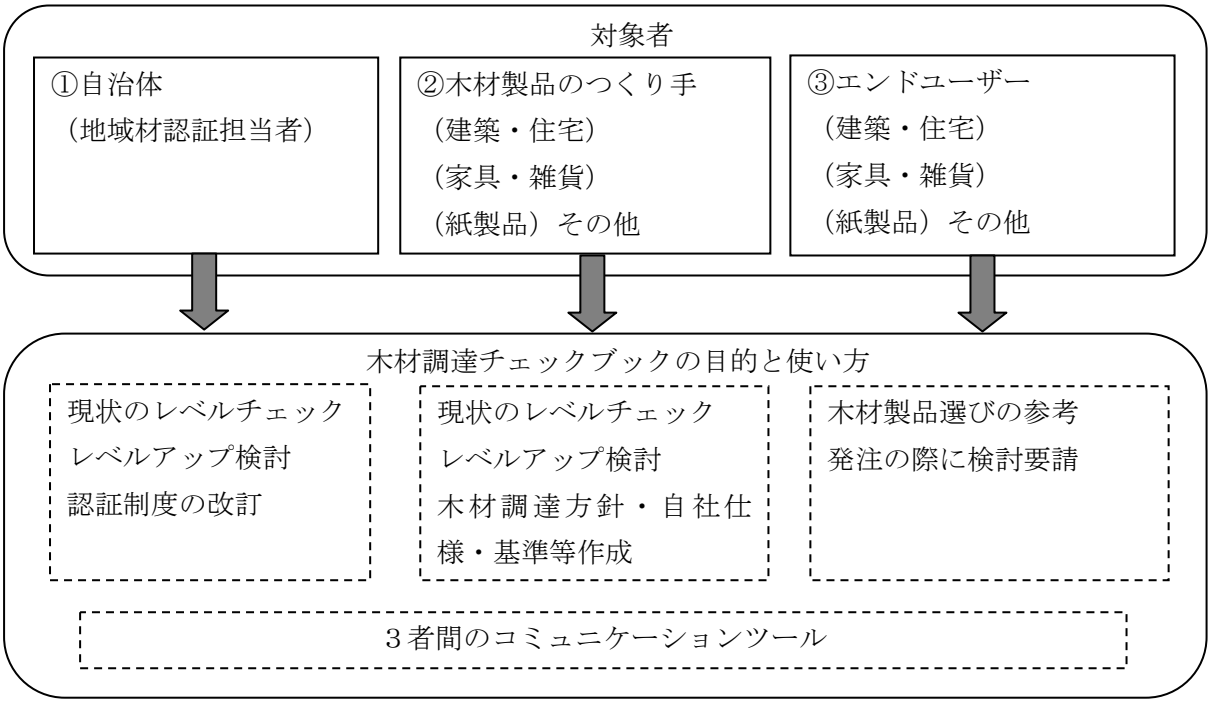
＜藤本氏＞

●建築関係者からすると、このような様々な指標をもう少しまとめて、どれくらいやればいいというものを知りたい。

木材調達チェックブックの目的について（案）

～対象者（誰が）、目的（何のために）、使い方（どのように使用するか）

●対象者は、自治体、つくり手、エンドユーザーの３者とし、３者全てが理解でき、３者間のコミュニケーションツールとしても使えるチェックブックとする。



- 木材の環境指標のみであれば問題ないと思われるが、木材の品質を含めると、木材製品によって要求品質が異なるため、つくり手の対象者の限定が必要である。
- 当検討会では、家具・小物・紙製品等の品質を含めた議論は難しいため、建築・住宅に対象者を絞るか、品質自体の項目を削除するか、検討が必要である。
- 環境指標のみとし、建築・住宅に限らず、家具・雑貨・紙製品なども含めた場合は、より広範囲な普及が期待できる。
- 品質も含め、建築・住宅に限定する場合は、含水率・強度等の項目に対して、アンケート調査等を踏まえ、実情に即した到達基準（例えば、生産者と使用者間の説明や合意に基づく基準など）の設定は可能であると思われるが、広く公開する場合は責任問題も発生するため、法的基準に反するものは困難である。基本的な現行基準の範囲の中で、各基準や工夫すべきポイント等の解説にとどめるのが賢明だと思われる。

（参考）「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の成立を受けて、官庁施設に係る「木造計画・設計基準（仮称）」の本年度制定を目指し、設置された「木造計画・設計基準検討会」（大橋好光、河合直人、越原幹雄、坂本雄三、杉本洋文、中島正夫、林知行、安村基）第１回（7/29）資料の中で、骨子素案について検討するポイント例として、「製材について、JAS 材を標準とした場合にどのような支障が生じるか？材料の流通状況に縛られない設計をするため、無等級材による設計等を行うことが標準的な手法であるが、一方で基準強度は低く抑えられ不経済な設計となってしまう。これを克服するために、設計者はどのようにして一般流通材の適切な情報を入手すればよいのか？」という記述もあり、何らかの見解がまとめられるものと思われる。

資料３

木材調達チェックブックの内容について（事務局案）

（構成・項目の方針）

●新しい指標をつくるのではなく、今ある多岐に渡る指標に対して、何をどのようにうまく使うべきか、使用者がベストミクスを考えられるよう、整理する。

●各指標に対して、基本的に到達すべきレベルを設定し、ＣＡＳＢＥＥのように、それ以下を「負荷」、それ以上を「品質」と捉え、整理する。

（指標の候補）～「これからの木材は、5 つのモノサシで計りましょう！」

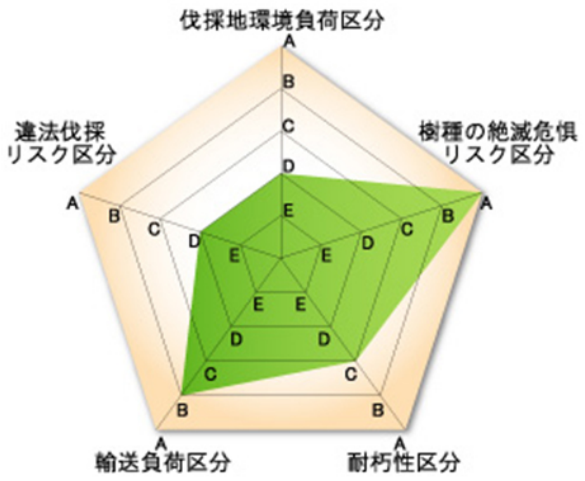
１　産地　（森林の持続可能性の担保）
【森林の見える木材ガイド】～フェアウッド・パートナーズ １違法伐採リスク区分（違法伐採リスクの割合を A～E で評価） ２伐採地環境負荷区分（下記４項目の合計スコアを A～E で評価） ・保護価値の高い森林の場際ではない・生態系をかく乱する大規模な天然林伐採ではない・伐採前の森林植生への回復度合い・地域社会との紛争、対立地域ではない 3 樹種の絶滅危惧リスク区分（絶滅危惧リスクの割合を A～E で評価） 4 耐久性区分→今回は採用しない 5 輸送負荷区分→ウッドマイレージＬ準拠（ウッドマイレージＣＯ2 の方で取り扱う） **【森林認証】**～森林認証機関 ・ＦＳＣ・ＳＧＥＣ・ＰＥＦＣ（国内には無し）のＦＭ認証
２　流通　（履歴確保、流通経路の信頼性・透明性）
【森林認証】～森林認証機関 ・ＦＳＣ・ＳＧＥＣ・ＰＥＦＣのＣｏＣ認証 **【合法木材】**～全木連 ・登録時業者の証明書 **【流通把握度】**～ウッドマイルズ研究会 ・流通把握度（ウッドマイルズ関連指標）
３　省エネルギー　（排出ＣＯ２の削減）
※ＬＣＣＯ２の中で、負荷の大きい、以下の２項目を採用 **【乾燥エネルギー】**～ＬＣＣＭ住宅研究開発委員会（IBEC)、ＣＦＰ（林野庁）等 ・化石燃料（重油等）の使用割合 **【輸送エネルギー】**～ウッドマイルズ研究会 ・ウッドマイレージＣＯ２（ウッドマイルズ関連指標）
４　超寿命　（木材の長期利用による温暖化防止への貢献）
【炭素固定量】～（公式）絶乾重量の 50% ・持続可能な森林の担保、かつ長期利用（最低でも樹齢以上の使用等）でなければ、ＣＯ２削減には貢献しない。森林吸収量との併記は、LCCO2 の考え方からは不可。
５　基本的な品質　（含水率、強度）

（各指標の補足資料）

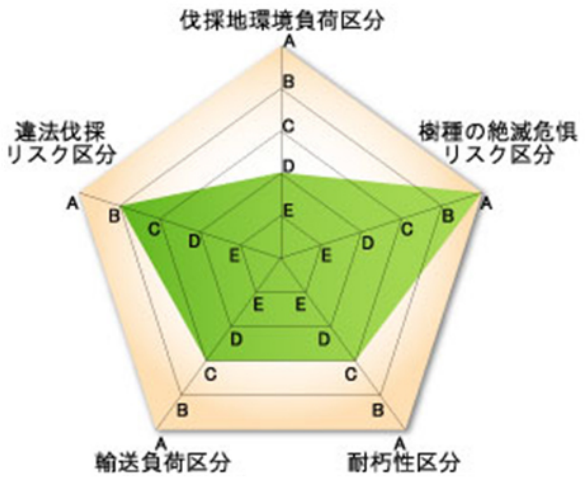
【森林の見える木材ガイド】

（ガイド例）ラーチ、北洋カラマツ、シベリアカラマツ、グイマツ

ロシア産の場合



中国産の場合



（評価尺度説明）

■ 表1　評価尺度定義表

評価区分	評価座標軸及びその説明	区分評価ランク A	B	C	D	E
違法伐採リスク区分	違法伐採の割合(%)(注1)	10%未満	10%以上	30%以上	50%以上	70%以上
伐採地環境負荷区分(※)	産地別森林環境負荷区分評価指標(表2)に基づく合計スコア＝(1)＋(2)＋(3)＋(4)	11～12点	9～10点	7～8点	5～6点	4点
輸送負荷区分	東京起点とした原木伐採地までの直線距離(注2)	1,000km未満	1,000km以上	3,000km以上	6,000km以上	10,000km以上
樹種の絶滅危惧リスク区分	IUCN Red Databook 1994 Categories & Criteria (Ver2.3)(注3)	LR/LC	LR/CD&NT	VU	EN	CR
	IUCN Red Databook Category(日本版)	カテゴリー外	準絶滅危惧	絶滅危惧やや高い	絶滅危惧高い	絶滅危惧非常に高い
耐朽性区分	樹種の耐久性(注4)	極大	大	中	小	極小

注1 WWF, *Scale of Illegal Logging around the World*, 2004
注2 ウッドマイレージL(リニアー)準拠
注3 LR=Low Risk, LC=Least Concern, CD=Conservation Dependent, NT=Near Threat, VU=Vulnerable, EN=Endangered, CR=Critically Endangered
注4 木材活用事典

■ 表2　産地別森林環境負荷リスク評価指標

	区分評点	3点	2点	1点
(1)	保護価値の高い森林(HCVF)(注1)伐採リスク	当該樹種の原産地には指定地域は含まれない、または、指定地域に含まれていても域内の森林で木材生産(伐採)は行われていない。	当該樹種の原産地には指定地域が含まれており、域内の森林で一部木材生産(伐採)が行われているか、木材生産用の対象地に一部割り当てられている。	当該樹種の原産地には指定地域が含まれており、域内の森林で大規模に木材生産(伐採)が行われているか、木材生産用の対象地に大規模に割り当てられている。
(2)	生態系への影響ある天然林(注2)伐採リスク	当該樹種の原産地では、生態系を撹乱する大規模な天然林伐採はない。	当該樹種の原産地では、生態系を撹乱する大規模な天然林伐採が一部で行われている。	当該樹種の原産地では、生態系を撹乱する大規模な天然林伐採が広く行われている。
(3)	伐採前の森林植生への回復リスク	伐採前の植生への回復はおおむね良好	伐採前の植生への回復が不良な林地が一部見られる	伐採前の植生への回復が不良な林地が多く見られる
(4)	地域社会との紛争・対立地域リスク	当該樹種の原産地では、過去10年間に地域社会・住民(先住民含む)との森林開発・伐採に係わる目立った紛争・対立は報じられていない(注3)。	当該樹種の原産地では、過去10年間に地域社会・住民(先住民含む)との紛争・対立が一部の地域で報じられている。	当該樹種の原産地では、過去10年間に地域社会・住民(先住民含む)との紛争・対立が多数の地域で報じられている。

注1 保護価値の高い森林とは、Global 200(WWF)、Intact forest map(WRI)、Biodiversity Hotspots(CI)、Biosphere Reserve(UNESCO)のいずれかに指定されている地域内の森林とする

注2「生態系を撹乱する大規模な天然林伐採」とは、天然林における木材生産(伐採)により野生動植物の個体数や種の多様性が顕著に減少している状態

注3「報じられている」とは、過去10年間の報道・研究報告などで紛争・対立が明示的に取り上げられていること

【森林認証】～ＦＭ認証、ＣｏＣ認証

森林認証制度とは、持続可能な管理がなされた森林と、そこから切り出される木材に証明（認証）を発行し、ラベルをつけることで、消費者に環境に配慮した木材を選んで買う機会を提供する制度です。認証審査は認証組織自体ではなく、認定された専門の第三者機関が、原則や基準に従って厳正に行ないます。認証発行後も有効期間中は毎年監査が行われ、より健全で持続的な森林管理・木材加工流通に向けて継続的に取り組まれています。

森林認証の種類には、森林に対する認証（FM 認証）の他、認証された森林からの木材の加工・流通プロセスに対する認証（CoC 認証）があります。FM 認証では環境、地域住民などに配慮した森林管理の状態を評価し、CoC 認証では認証材が非認証材と混ざらずきちんと区別されて取り扱われているか、ラベルがきちんとルール通りに貼り付けられているかを確認します。

FM 認証は林業会社、森林組合、市町村林、大手製紙・住宅会社の社有林など、CoC 認証については特に製紙、製材、建築、家具加工など、木材や紙・パルプに関連する多種多様な企業が取得し、持続可能な森林づくりに貢献しながら、消費者への積極的なエコ・アピールの手段として活用しています。国内の代表的な森林認証制度として、ＦＳＣとＳＧＥＣが上げられます。

FSC：Forest Stewardship Council　（ＦＳＣジャパン）http://www.forsta.or.jp/fsc/

国内ＦＭ認証：63 箇所（368,027ha）（2010/6/10）

1993 年創設。ドイツ・ボンに非営利・非政府の FSC 本部（FSC International）があり、世界の各国・地域で下部組織が展開している。FSC 森林認証規格は、国・地域ごとに異なり、FSC 本部が掲げる 10 項目の原則と、それらに基づく 56 項目の基準をベースに、各国・地域のニーズに即した個別の規格が設けられている。また、森林認証と共に、林産物の加工過程経路のトレーサビリティーの確立と完成した林産物が FSC 認証森林およびその他の FSC の定める基準を満たしていることを保証する生産・加工・流通過程の管理の認証（Chain of Custody：CoC 認証）も実施している。

SGEC：Sustainable Green Ecosystem Council　「緑の循環認証会議」　http://www.sgec-eco.org/

国内ＦＭ認証：94 箇所（818,784ha）国内 CoC 認証：356 事業体（2010/4/28）

2003 年創設。世界的に推奨されている持続可能な森林管理の考え方をもとに、人工林の割合が高く、所有規模が小さいという日本の森林の実情を踏まえてつくられた国際性を持つ基準。日本が参加している「モントリオール・プロセス」（国際基準）を踏まえて定められた SGEC の 7 つの基準・36 の指標から「認証単位」の実情に応じた「審査要件」（具体的な審査項目）を設定した上で、審査が行われる。森林認証と共に分別・表示システムとして「SGEC 認証林産物取扱認定事業体」の設定（所謂 CoC 認証）も運営している。

PEFC 森林認証プログラム：Programme for the Endoresement of Forest Certification Schemes
http://www.pefc.org/internet/html/

国内 CoC 認証：163 事業体（2010/7/12）

1999 年創設。各国の独立した自足可能な森林認証規格制度がお互いの規格を承認することを目的に加盟、運営する NGO である。本部はルクセンブルグにあり現在 31 カ国の森林認証規格制度が加盟している。各国の森林認証規格制度は、政府間プロセスと言われる持続可能な森林管理のための国際森林管理基準を採用し、林業組合、森林所有・監理者、製材業者、木材製品流通業者、紙・パルプ製造・販売業者、環境保護団体、各種関係団体などのステークホルダーによって自主的に策定、運営されている。生産物認証 CoC 認証も行い、第 3 者機関により認証される。

【合法木材】

違法伐採問題は、世界の森林減少だけではなく、違法に伐採された安価な木材が輸入されると、日本のような木材輸入国にとって、国内の林業・木材産業にも悪影響を与えます。平成 18 年 4 月から、政府が調達する木材・木材製品については、合法性等の証明が必要になりました。木材・木材製品の合法性等の証明については、林野庁「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」にて、森林認証を活用する方法、業界団体の認定を受けた事業者が証明する方法、事業者独自の取り組みによる方法、という３つの方法が上げられています。

＜合法木材推進マーク＞

「合法木材推進マーク」は次の場合に使用できます。

①合法木材システム及び合法木材普及啓発活動のＰＲの場合

（例：ポスター、チラシなど印刷物、イベント会場、ＨＰなど）

②合法木材を供給する事業者であることの表示の場合

（※使用ご希望の場合は合法木材ナビをご参照下さい）

（注）合法性が証明された木材及び木材製品に貼付して使用することはできません

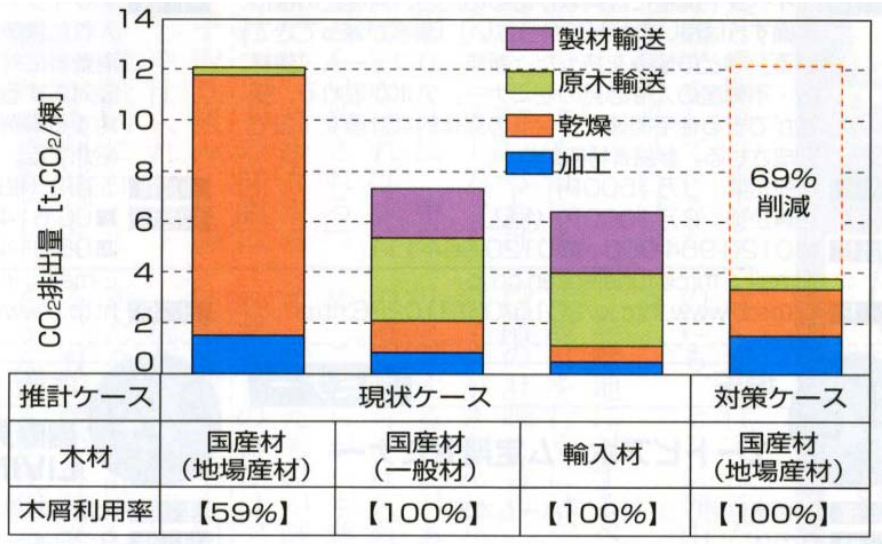
出典／合法木材ナビ（違法伐採総合対策推進協議会）http://www.goho-wood.jp/

【乾燥エネルギー】

＜ＬＣＣＭ住宅研究開発委員会／（財）建築環境・省エネルギー機構＞

・LCCO2 部会（部会長 伊香賀俊治氏）H21 年度研究報告より

http://www.jsbc.or.jp/lccm/files/lccm_02.pdf



a）現状ケースに関して

地場産木材のCO_2排出量が最も多く、特に製材段階（乾燥工程）が占める割合が85%と大きい。中小規模の製材所では、乾燥工程において昼間は木屑を利用しているが、夜間は人件費削減のためにA重油での自動運転に切り替えているために木屑利用率が国産材（一般財）、輸入材と比較して小さくなっているためである。国産材（一般財）、輸入材は、輸送を県外、国外間で行っており輸送段階のCO_2排出量が多いが、大規模製材所のため24時間木屑を利用しているため、全段階のCO_2排出量が、中小規模製材所の地場産木材よりも少なくなっている。

b) 対策ケースに関して

地場産木材の木屑利用率を現状の 59%から 100%に向上させた場合の CO_2 排出量を推計した。100%に向上させることで現状から 69%と大幅な削減が可能であり、全段階の CO_2 排出量は国産材(一般材)、輸入材を下回る。

（今後の予定）

H22 年度中に、CASBEE-すまい（戸建）ツールの簡便さを備えつつも、地場産材選択の評価が反映されるよう木材伐採、製材、乾燥、輸送段階についても適切な計算精度を保ちつつも簡易な評価が可能なツールを完成させる。また、現地調査と文献調査を継続し、木材の産地（国内外の各地域）のデータベースを完成させる。

＜北海道立林産試験場＞

・道産建築用材の環境優位性の評価（H20 年度研究成果）より

表1 評価する戸建て住宅のシナリオ

シナリオ	構法	構造材(産地)	準構造材(産地)	製材の乾燥熱源
1	軸組	乾燥製材(北海道)	乾燥製材、合板(北海道)	化石燃料
1'	軸組	乾燥製材(北海道)	乾燥製材、合板(北海道)	木屑
2	軸組	集成材(北海道)	乾燥製材、合板(北海道)	化石燃料
3	軸組	集成材(フィンランド)	乾燥製材、合板(北海道)	木屑
4	枠組	乾燥製材(カナダ)	乾燥製材、合板(北海道)	木屑

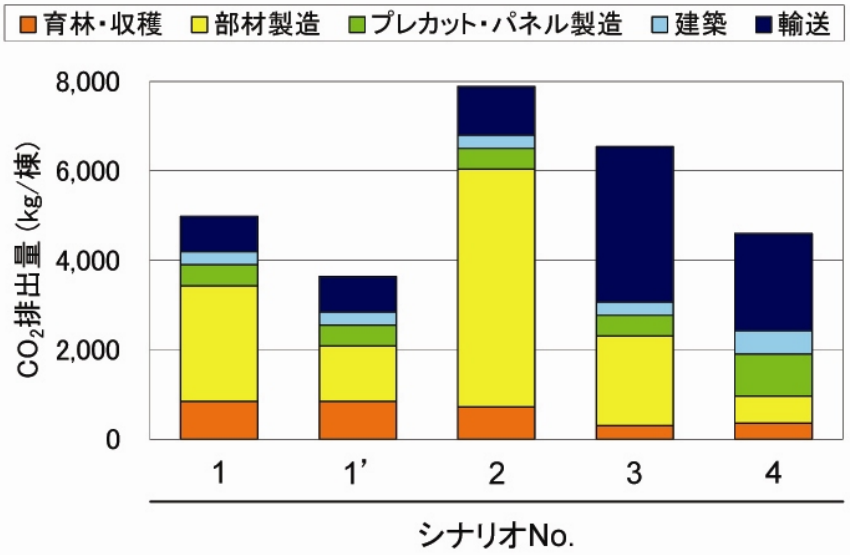
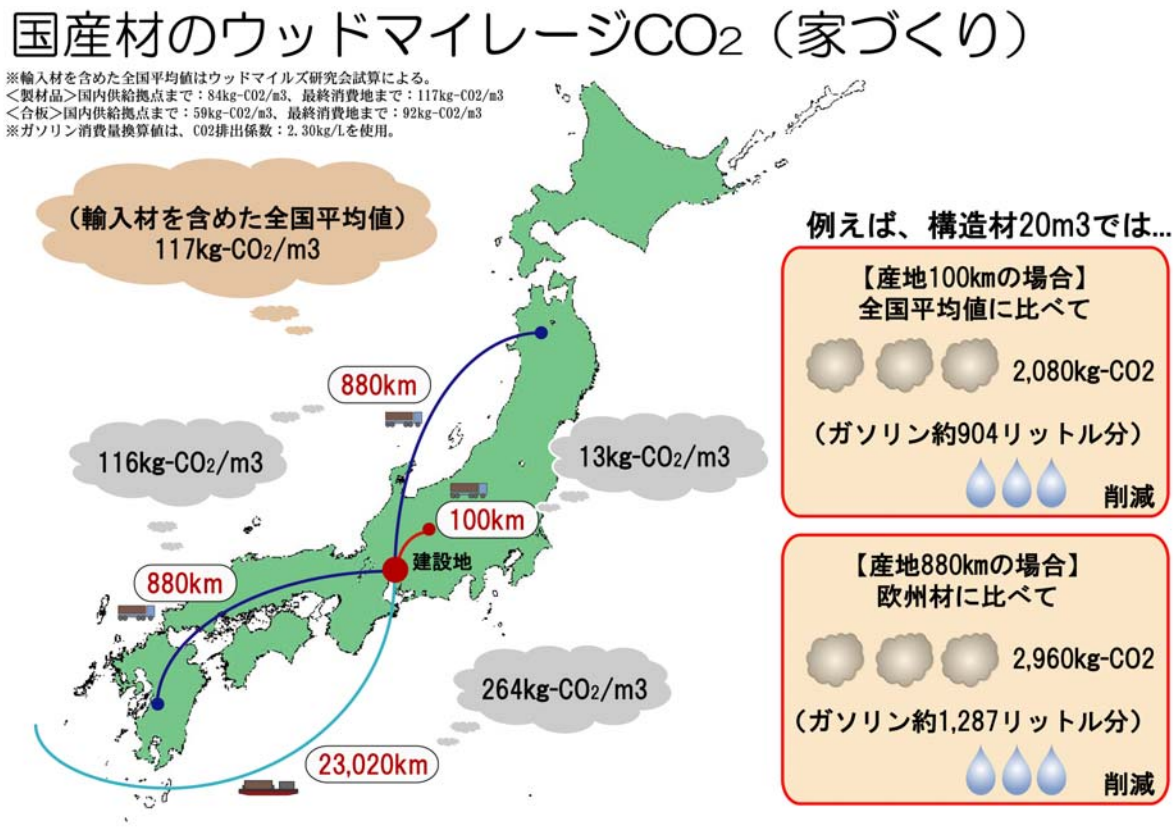


図1 戸建て住宅のCO_2排出量

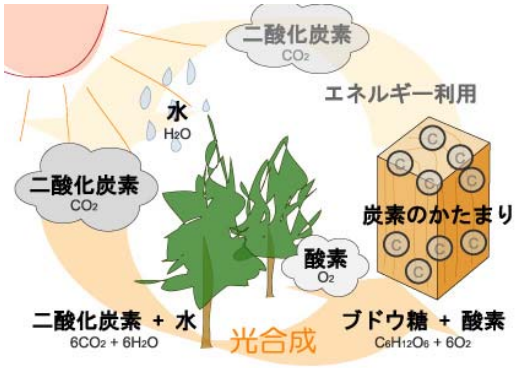
構造材に乾燥製材を用いるシナリオ 1 と 4 の比較より、輸入材より道産材が必ずしも優位とならないケースもあるが、海外と同様に木屑炊きボイラーで木材乾燥を行う場合（シナリオ 1'） では、道産材が優位となることが示された。

【輸送エネルギー】～ウッドマイルズ関連指標



※　現在の平均値（117 kg-co2／m3）は、国内自動車輸送　約 880 km　と同等。

【炭素固定量】



＜炭素貯蔵効果に関する定量的評価方法＞

「木材利用に係る環境貢献度の定量的評価手法について（中間とりまとめ）林野庁」より

・木材中の炭素貯蔵量については、IPCC の LULUCF-GPG（良好手法指針）に基づき、木材重量の約 5 割であることから、容易に算定可能。

・なお、木材製品を廃棄することなく、より長期間にわたって利用し続ければ、炭素の貯蔵効果はより高度に発揮されることとなる。このため、炭素貯蔵効果を示す場合には、炭素貯蔵量の絶対値による評価に加え、時間軸を加味した評価が考えられるが、この評価を行う場合には、ベースラインとなる炭素貯蔵期間（木材製品の標準的な利用期間）の設定をはじめとした、更なる検討が必要である。

＜シカゴ気候取引所（CCX)のシカゴ気候取引所森林吸収源オフセットプロジェクト＞
「持続可能な森林経営のための勉強部屋（藤原氏)」ＨＰより

シカゴ気候取引所（CCX）は世界で最も早く北米では唯一の温室効果ガス（GHG）取引システムであり、世界中のオフセットプロジェクトを包括している。メンバーとなっている団体は、2010年までに 2000 年比で 6%の排出削減を約束している。約束の達成手段として、CCX 上で排出削減プロジェクト及び森林プロジェクト由来の排出権クレジットの売買が行われている。森林プロジェクトとしては、新規植林、再植林、持続的森林管理、そして長期保存木材製品（Long Lived Wood Products: LLWP）が認められている。

LLWP は、認証を受けた持続可能な管理の行われている森林由来の伐採木材が対象となる。他プロジェクト由来のクレジットとの等価性を確保するため、100 年後に利用されているあるいは埋立地に残っていると推定される固定量がクレジット量として計算される。また、クレジットの権利は、伐採木材を算出した森林の土地所有者であるという点も特徴的である。FSC あるいは PEFC の認証を受けた持続可能な管理が行われている森林が対象となる。計上に際しては、それら森林から搬出された木材あるいは一次製品の量を把握し、製品の種類と地域別に整備されているデフォルトの減衰率（下表）を用いて 100 年後に利用されているあるいは埋立地に残っている固定量を推定する。

表 CCX の LLWP の計算に用いられる 100 年後の固定量の割合

地域	針葉樹丸太 製材用	針葉樹丸太 パルプ用	広葉樹丸太 製材用	広葉樹丸太 パルプ用
Northeast	0.318	0.09	0.316	0.261
North Central	0.346	0.092	0.297	0.304
Pacific Northwest (East)	0.337	0.337	0.265	0.265
Pacific Northwest (West)	0.409	0.076	0.207	0.207
Pacific Southwest	0.355	0.355	0.265	0.265
Rocky Mountain	0.367	0.367	0.265	0.265
Southeast	0.336	0.141	0.304	0.188
South Central	0.334	0.162	0.285	0.176

木材調達チェックブック　評価手法（案）

評価項 / 評価レベル		1　産地			2　流通	3　省エネルギー		4　長寿命	5　品質
		違法伐採	伐採地環境負荷	樹種の絶滅危惧	履歴確保	乾燥	輸送	炭素固定（※）	基本的品質
優れている部分	2	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証・合法木材】CoC認証（FSC,SGEC）【ウッドマイルズ流通把握度】80%以上	【化石燃料使用率】19%以下	【ウッドマイルズCO2】40kg-CO2以下（自動車300km相当）	樹齢以上の寿命が見込める部位が全体の50%以上	【含水率】JAS基準【強度】明示有り【測定】工場測定
	1	【森林の見える木材ガイド】評点A	【森林の見える木材ガイド】評点A	【森林の見える木材ガイド】評点A	【合法木材】業界団体認証【ウッドマイルズ流通把握度】60～79%以上	【化石燃料使用率】20～39%	【ウッドマイルズCO2】41～89kg-CO2	樹齢以上の寿命が見込める部位が全体の50%未満	【含水率】JAS基準【強度】明示有り【測定】自主測定
到達すべきレベル	0	【森林の見える木材ガイド】評点B	【森林の見える木材ガイド】評点B	【森林の見える木材ガイド】評点B	【合法木材】事業者独自認証【ウッドマイルズ流通把握度】40～59%	【化石燃料使用率】40～59%	【ウッドマイルズCO2】90～120kg-CO2（平均値）		【含水率】JAS基準【強度】無等級材【測定】自主測定
削除を要する部分	-1	【森林の見える木材ガイド】評点C	【森林の見える木材ガイド】評点C	【森林の見える木材ガイド】評点C	【ウッドマイルズ流通把握度】20～39%	【化石燃料使用率】60～79%	【ウッドマイルズCO2】121～169kg-CO2		【含水率】基準なし【強度】無等級材【測定】自主測定
	-2	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【ウッドマイルズ流通把握度】19%以下	【化石燃料使用率】80%以上	【ウッドマイルズCO2】170kg-CO2以上		【含水率】基準なし【強度】基準なし【測定】しない

（備考）
※「4　長寿命」については、「1　産地」の評価において、削減を要する部分が無い場合のみ、評価される。

木材調達チェックブック　評価事例1（案）　～森林認証・地域材（中小製材印字工場）の例

評価項 / 評価レベル		1　産地			2　流通	3　省エネルギー		4　長寿命	5　品質
		違法伐採	伐採地環境負荷	樹種の絶滅危惧	履歴確保	乾燥	輸送	炭素固定（※）	基本的品質
優れている部分	2	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証・合法木材】CoC認証（FSC,SGEC）【ウッドマイルズ流通把握度】80%以上	【化石燃料使用率】19%以下	【ウッドマイルズCO2】40kg-CO2以下（自動車300km相当）	樹齢以上の寿命が見込める部位が全体の50%以上	【含水率】JAS基準【強度】明示有り【測定】工場測定
	1	【森林の見える木材ガイド】評点A	【森林の見える木材ガイド】評点A	【森林の見える木材ガイド】評点A	【合法木材】業界団体認証【ウッドマイルズ流通把握度】60～79%以上	【化石燃料使用率】20～39%	【ウッドマイルズCO2】41～89kg-CO2	樹齢以上の寿命が見込める部位が全体の50%未満	【含水率】JAS基準【強度】明示有り【測定】自主測定
到達すべきレベル	0	【森林の見える木材ガイド】評点B	【森林の見える木材ガイド】評点B	【森林の見える木材ガイド】評点B	【合法木材】事業者独自認証【ウッドマイルズ流通把握度】40～59%	【化石燃料使用率】40～59%	【ウッドマイルズCO2】90～120kg-CO2（平均値）		【含水率】JAS基準【強度】無等級材【測定】自主測定
削除を要する部分	-1	【森林の見える木材ガイド】評点C	【森林の見える木材ガイド】評点C	【森林の見える木材ガイド】評点C	【ウッドマイルズ流通把握度】20～39%	【化石燃料使用率】60～79%	【ウッドマイルズCO2】121～169kg-CO2		【含水率】基準なし【強度】無等級材【測定】自主測定
	-2	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【ウッドマイルズ流通把握度】19%以下	【化石燃料使用率】80%以上	【ウッドマイルズCO2】170kg-CO2以上		【含水率】基準なし【強度】基準なし【測定】しない

（備考）
※「4　長寿命」については、「1　産地」の評価において、削減を要する部分が無い場合のみ、評価される。

木材調達チェックブック　評価事例2（案）　～国産スギ（中小製材所）の例

評価項 ＼ 評価レベル		1　産地			2　流通	3　省エネルギー		4　長寿命	5　品質
		違法伐採	伐採地環境負荷	樹種の絶滅危惧	履歴確保	乾燥	輸送	炭素固定（※）	基本的品質
優れている部分	2	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証・合法木材】CoC認証（FSC,SGEC）【ウッドマイルズ流通把握度】80%以上	【化石燃料使用率】19%以下	【ウッドマイルズCO2】40kg-CO2以下（自動車300km相当）	樹齢以上の寿命が見込める部位が全体の50%以上	【含水率】JAS基準【強度】明示有り【測定】工場測定
	1	【森林の見える木材ガイド】評点A	【森林の見える木材ガイド】評点A	【森林の見える木材ガイド】評点A	【合法木材】業界団体認証【ウッドマイルズ流通把握度】60～79%以上	【化石燃料使用率】20～39%	【ウッドマイルズCO2】41～89kg-CO2	樹齢以上の寿命が見込める部位が全体の50%未満	【含水率】JAS基準【強度】明示有り【測定】自主測定
到達すべきレベル	0	【森林の見える木材ガイド】評点B	【森林の見える木材ガイド】評点B	【森林の見える木材ガイド】評点B	【合法木材】事業者独自認証【ウッドマイルズ流通把握度】40～59%	【化石燃料使用率】40～59%	【ウッドマイルズCO2】90～120kg-CO2（平均値）		【含水率】JAS基準【強度】無等級材【測定】自主測定
削除を要する部分	-1	【森林の見える木材ガイド】評点C	【森林の見える木材ガイド】評点C	【森林の見える木材ガイド】評点C	【ウッドマイルズ流通把握度】20～39%	【化石燃料使用率】60～79%	【ウッドマイルズCO2】121～169kg-CO2		【含水率】基準なし【強度】無等級材【測定】自主測定
	-2	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【ウッドマイルズ流通把握度】19%以下	【化石燃料使用率】80%以上	【ウッドマイルズCO2】170kg-CO2以上		【含水率】基準なし【強度】基準なし【測定】しない

（備考）
※「4　長寿命」については、「1　産地」の評価において、削減を要する部分が無い場合のみ、評価される。

木材調達チェックブック　評価事例3（案）　～ロシア・ラーチ合板の例

評価項 / 評価レベル		1　産地			2　流通	3　省エネルギー		4　長寿命	5　品質
		違法伐採	伐採地環境負荷	樹種の絶滅危惧	履歴確保	乾燥	輸送	炭素固定（※）	基本的品質
優れている部分	2	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証】FM認証（FSC,SGEC）	【森林認証・合法木材】CoC認証（FSC,SGEC）【ウッドマイルズ流通把握度】80%以上	【化石燃料使用率】19%以下	【ウッドマイルズCO2】40kg-CO2以下（自動車300km相当）	樹齢以上の寿命が見込める部位が全体の50%以上	【含水率】JAS基準【強度】明示有り【測定】工場測定
	1	【森林の見える木材ガイド】評点A	【森林の見える木材ガイド】評点A	【森林の見える木材ガイド】評点A	【合法木材】業界団体認証【ウッドマイルズ流通把握度】60～79%以上	【化石燃料使用率】20～39%	【ウッドマイルズCO2】41～89kg-CO2	樹齢以上の寿命が見込める部位が全体の50%未満	【含水率】JAS基準【強度】明示有り【測定】自主測定
到達すべきレベル	0	【森林の見える木材ガイド】評点B	【森林の見える木材ガイド】評点B	【森林の見える木材ガイド】評点B	【合法木材】事業者独自認証【ウッドマイルズ流通把握度】40～59%	【化石燃料使用率】40～59%	【ウッドマイルズCO2】90～120kg-CO2（平均値）		【含水率】JAS基準【強度】無等級材【測定】自主測定
削除を要する部分	-1	【森林の見える木材ガイド】評点C	【森林の見える木材ガイド】評点C	【森林の見える木材ガイド】評点C	【ウッドマイルズ流通把握度】20～39%	【化石燃料使用率】60～79%	【ウッドマイルズCO2】121～169kg-CO2		【含水率】基準なし【強度】無等級材【測定】自主測定
	-2	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【森林の見える木材ガイド】評点D～E	【ウッドマイルズ流通把握度】19%以下	【化石燃料使用率】80%以上	【ウッドマイルズCO2】170kg-CO2以上		【含水率】基準なし【強度】基準なし【測定】しない

（備考）
※「4　長寿命」については、「1　産地」の評価において、削減を要する部分が無い場合のみ、評価される。

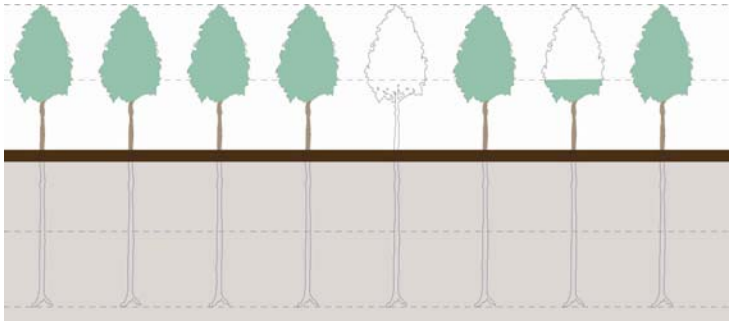
（情報レベル、最終成果品について）

●各指標の詳細は外部機関に頼るため、書籍では、最低１年は情報が遅れてしまうこと、数年後にはｉブックの時代が来るかもしれないこと、インターネットの普及、等を考慮し、当面は電子データでのやり取りが望ましいと思われる。

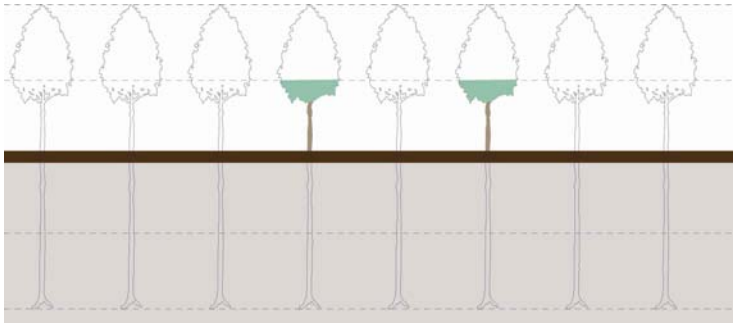
●成果品の構成イメージ

□冒頭数ページ
　一般でも理解できる、簡易な概要紹介。エンドユーザーとのコミュニケーションとしても利用
□各指標の詳細解説
　情報元、評価方法、その他解説（プロ向け）
□評価事例集
　数パターンの木材の評価事例を掲載（プロ向け）
□評価結果シート（別紙）
　塗り絵感覚で、自ら記載できるシート。エンドユーザーとのコミュニケーションとしても利用

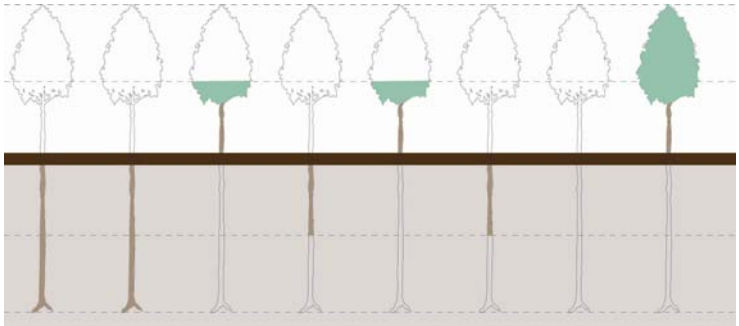
（例えば↓）



評価事例１



評価事例２



評価事例３

資料 4

関係者アンケートについて（事務局案）

1　目的

地域材の「環境指標」「品質指標」について、普及認知度、利用実態、課題、改善の意向、その他意見を調査し、木材調達チェックブック検討作成に反映させる。

2　対象者

・自治体農林関係担当者（47 都道府県）～京都セミナー案内と共に京都府にて送付
・ウッドマイルズ研究会会員（194 名）～メール配信
・ウッドマイルズニュースレター会員（425 名）～メール配信
・顔の見える木材での家づくりデータベース（168 団体）～メール配信

3　調査内容

（自治体）
・木材の環境指標、品質指標の認知度調査
・地域材認証制度の有無
・既往の地域材認証制度について
　□　指標・基準の概要（環境指標・品質基準・その他）
　□　主要な問題点
　□　付加、改善、改訂したい項目（環境指標・品質基準・その他）
　□　特に知りたい指標・基準など
・京都府にてヒアリングしたい内容（後日すり合わせ予定）

（関係事業者：森林・木材・建築）
・木材の環境指標、品質指標の認知度調査
・地域材利用の有無
・地域材利用における基準、チェック事項について
　□　使用している基準、チェック事項（各種機関の基準、独自の基準）
　□　基準の実施状況（問題点など）
　□　付加、改善、改訂したい項目（環境指標・品質基準・その他）
　□　特に知りたい指標・基準など

（その他、一般）
・木材の環境指標、品質指標の認知度調査
・木材について特に知りたい情報

＜ア ン ケ ー ト 調 査 用 紙＞

自治体用

該当する□欄にチェックをご記入下さい。

【Ⅰ　木材の環境指標、品質指標の認知度調査】

1. 木材の以下の環境指標について、理解の度合いをお答え下さい。

（森林認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（FSC認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（SGEC認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（FM認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（CoC認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（フェアウッド）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（合法木材）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（カーボンフットプリント）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（LCCO2）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（ウッドマイルズ）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（カーボン・オフセット）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（森林 CO2 吸収認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（炭素固定認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

その他、使用している、又は関わりがある環境指標がございましたら、名称等ご記入下さい。
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

2. 木材の以下の品質指標について、理解の度合いをお答え下さい。

（無等級材）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（JAS目視等級）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（JAS機械等級）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（ヤング係数）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（含水率）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

その他、使用している、又は関わりがある品質指標がございましたら、名称等ご記入下さい。
（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

【Ⅱ　地域材認証制度について】

1. 自治体の地域材認証制度について

□　実施している　　□　今後、実施の予定がある
□　実施の予定はないが、必要だと思う　　□　実施の予定はなく、不要だと思う

（以下は、上記1で、「実施している」または「今後、実施の予定がある」とお答えの方のみ）

2. 地域材認証制度の名称
（　　）

3. 地域材認証制度に組み込んでいる環境指標について、該当するものにチェックして下さい。

□　森林認証（具体的に：　　）
□　フェアウッド
□　産地証明
□　合法木材
□　カーボンフットプリント
□　ＬＣＣＯ２（具体的に：　　）
□　ウッドマイルズ
□　カーボン・オフセット（具体的に：　　）
□　森林ＣＯ２吸収認証
□　炭素固定認証
□　その他（具体的に：　　）

4. 地域材認証制度に組み込んでいる品質指標について、該当するものにチェックして下さい。

□　ＪＡＳ目視等級
□　ＪＡＳ機械等級
□　独自の強度基準（具体的に↓）

部位	基準

□　ＪＡＳ含水率基準
□　独自の含水率基準（具体的に↓）

部位	基準

□　その他（具体的に↓）

5. 既往の地域材認証制度について、主要な課題、問題点がございましたら、ご記入下さい。

6. 今後、地域材認証制度に付加したい環境指標について、該当するものにチェックして下さい。

□　森林認証（具体的に：　　）
□　フェアウッド
□　産地証明
□　合法木材
□　カーボンフットプリント
□　ＬＣＣＯ２（具体的に：　　）
□　ウッドマイルズ
□　カーボン・オフセット（具体的に：　　）
□　森林ＣＯ２吸収認証
□　炭素固定認証
□　その他（具体的に：　　）

7. 今後、地域材認証制度に付加したい品質指標について、該当するものにチェックして下さい。

□　ＪＡＳ目視等級
□　ＪＡＳ機械等級
□　独自の強度基準（具体的に↓）

□　ＪＡＳ含水率基準
□　独自の含水率基準（具体的に↓）

□　その他（具体的に↓）

8. 既往の地域材認証制度について、その他改善したい内容がございましたら、ご記入下さい。

9. 木材の環境指標、品質指標について、特に情報が欲しいものについて、ご記入下さい。

その他、木材の環境指標、品質指標に関してご意見等ございましたら、ご記入下さい。

【 ご 回 答 者 （差し支えなければご記入下さい） 】

自治体名

（以下は、差し支えなければご記入下さい）

お名前　　所属

所在地　〒

TEL　　FAX

E-mail

アンケート調査は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

【 ア ン ケ ー ト 送 付 先】

（メールの場合） info@woodmiles.net　　（FAXの場合） 03-5365-4166

【お問合せ先】

ウッドマイルズ研究会事務局（担当：滝口泰弘）

〒151-0053　東京都渋谷区代々木 2-27-8 代々木レジデンス 401

TEL:03-6300-9601　FAX:03-5365-4166　E-mail:yasuhiro@wood-ac.or.tv

＜ア ン ケ ー ト 調 査 用 紙＞

関係事業者用

該当する□欄にチェックをご記入下さい。

【Ⅰ　木材の環境指標、品質指標の認知度調査】

1. 木材の以下の環境指標について、理解の度合いをお答え下さい。

（森林認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（FSC認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（SGEC認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（FM認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（CoC認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（フェアウッド）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（合法木材）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（カーボンフットプリント）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（LCCO2）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（ウッドマイルズ）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（カーボン・オフセット）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（森林 CO2 吸収認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（炭素固定認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

その他、使用している、又は関わりがある環境指標がございましたら、名称等ご記入下さい。

（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

2. 木材の以下の品質指標について、理解の度合いをお答え下さい。

（無等級材）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（JAS目視等級）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（JAS機械等級）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（ヤング係数）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（含水率）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

その他、使用している、又は関わりがある品質指標がございましたら、名称等ご記入下さい。

（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

【Ⅱ　地域材利用について】

1. 地域材利用について

□　利用している　　□　今後、利用の予定がある
□　予定はないが、利用したいと思う　　□　予定はなく、利用したいと思わない

（以下は、上記1で、「利用している」または「今後、利用の予定がある」とお答えの方のみ）

2. 地域材の名称
（　　）

3. 地域材利用の際に、使用している環境指標について、該当するものにチェックして下さい。

□　森林認証（具体的に：　　）
□　フェアウッド
□　産地証明
□　合法木材
□　カーボンフットプリント
□　ＬＣＣＯ２（具体的に：　　）
□　ウッドマイルズ
□　カーボン・オフセット（具体的に：　　）
□　森林ＣＯ２吸収認証
□　炭素固定認証
□　その他（具体的に：　　）

4. 地域材利用の際に、使用している品質指標について、該当するものにチェックして下さい。

□　ＪＡＳ目視等級
□　ＪＡＳ機械等級
□　独自の強度基準（具体的に↓）

部位	基準

□　ＪＡＳ含水率基準
□　独自の含水率基準（具体的に↓）

部位	基準

□　その他（具体的に↓）

5. 地域材利用の際に、主要な課題、問題点がございましたら、ご記入下さい。

6. 今後、地域材利用の際に使用したい環境指標について、該当するものにチェックして下さい。

□　森林認証（具体的に：　　）
□　フェアウッド
□　産地証明
□　合法木材
□　カーボンフットプリント
□　ＬＣＣＯ２（具体的に：　　）
□　ウッドマイルズ
□　カーボン・オフセット（具体的に：　　）
□　森林ＣＯ２吸収認証
□　炭素固定認証
□　その他（具体的に：　　）

7. 今後、地域材利用の際に使用したい品質指標について、該当するものにチェックして下さい。

□　ＪＡＳ目視等級
□　ＪＡＳ機械等級
□　独自の強度基準（具体的に↓）

□　ＪＡＳ含水率基準
□　独自の含水率基準（具体的に↓）

□　その他（具体的に↓）

8. 地域材利用の際に、その他改善したい内容がございましたら、ご記入下さい。

9. 木材の環境指標、品質指標について、特に情報が欲しいものについて、ご記入下さい。

その他、木材の環境指標、品質指標に関してご意見等ございましたら、ご記入下さい。

【 ご 回 答 者 （差し支えなければご記入下さい） 】

都道府県名　　業種名

（以下は、差し支えなければご記入下さい）

お名前　　所属

所在地　〒

TEL　　FAX

E-mail

アンケート調査は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

【 ア ン ケ ー ト 送 付 先】

（メールの場合） info@woodmiles.net　　（FAXの場合） 03-5365-4166

【お問合せ先】

ウッドマイルズ研究会事務局（担当：滝口泰弘）

〒151-0053　東京都渋谷区代々木 2-27-8 代々木レジデンス 401

TEL:03-6300-9601　FAX:03-5365-4166　E-mail:yasuhiro@wood-ac.or.tv

＜ア ン ケ ー ト 調 査 用 紙＞

その他一般用

該当する□欄にチェックをご記入下さい。

【Ⅰ　木材の環境指標、品質指標の認知度調査】

1. 木材の以下の環境指標について、理解の度合いをお答え下さい。

（森林認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（FSC認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（SGEC認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（FM認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（CoC認証）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（フェアウッド）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（合法木材）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（カーボンフットプリント）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（LCCO2）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（ウッドマイルズ）
□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（カーボン・オフセット）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（森林 CO2 吸収認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（炭素固定認証）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

その他、使用している、又は関わりがある環境指標がございましたら、名称等ご記入下さい。

（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

2. 木材の以下の品質指標について、理解の度合いをお答え下さい。

（無等級材）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（JAS目視等級）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（JAS機械等級）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（ヤング係数）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

（含水率）

□　実際に利用している、又は関わりがある　　□　とても良く知っている
□　ある程度は知っている　　□　聞いたことはある　　□　全く知らない

その他、使用している、又は関わりがある品質指標がございましたら、名称等ご記入下さい。

（　　）
（　　）
（　　）
（　　）

3. 木材の環境指標、品質指標について、特に情報が欲しいものについて、ご記入下さい。

その他、木材の環境指標、品質指標に関してご意見等ございましたら、ご記入下さい。

【 ご 回 答 者 （差し支えなければご記入下さい） 】

都道府県名　　業種名

（以下は、差し支えなければご記入下さい）

お名前　　所属

所在地　〒

TEL　　FAX

E-mail

アンケート調査は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

【 ア ン ケ ー ト 送 付 先】

（メールの場合） info@woodmiles.net　（FAXの場合） 03-5365-4166

【お問合せ先】

ウッドマイルズ研究会事務局（担当：滝口泰弘）

〒151-0053　東京都渋谷区代々木 2-27-8 代々木レジデンス 401

TEL:03-6300-9601　FAX:03-5365-4166　E-mail:yasuhiro@wood-ac.or.tv